

相対性理論完全破綻の数学的証明

Relativity theory mathematical bankruptcy

ダビンチ研 ○土田成能, 三谷昌弘

Davinci Lab ○Shigeyoshi Tsuchida, Masahiro Mitani

E-mail: davincimitsumori@gmail.com

A. Einstein の「光速不変」原理とする相対性理論は妄想であり, 数学上の誤りを以下証明する.

相対性理論を検証する Michelson-Morley の光の干渉実験において, c は光の速度, l は観測点と鏡面までの距離, v は地球公転速度, 水平往路鏡面到着時間を t_1 , 観測点帰着時間を t_2 とする.

A. Einstein の水平方向往復時間式に対して, 我々は, 波動の伝搬と慣性粒子の運動を明確に区別し, 以下土田・三谷式として提起する.

$$\frac{2lc + c(vt_1 - vt_2) - \frac{v^2}{c}(2l + (vt_1 - vt_2))}{c^2 - v^2} \quad (1)$$

この(1)式の展開(2)式は, 相対性理論の完全破綻, すなわち空間のローレンツ収縮の破綻を証明する.

$$\frac{2lc + c(vt_1 - vt_2) - \frac{v^2}{c}(2l + (vt_1 - vt_2))}{c^2 - v^2} = \frac{2l + (vt_1 - vt_2)}{c} = \frac{2l}{\sqrt{c^2 - v^2}} \quad (2)$$

次に, 光を粒子(光量子), すなわち物体として Michelson-Morley の光の干渉実験に適用すると, 座標間相互および水平・垂直方向いずれにおいても

$$\frac{2\sqrt{l^2 + (\frac{1}{2}vt)^2}}{\sqrt{c^2 + v^2}} = \frac{2lc - v^2t}{c^2 - v^2} = \frac{2l}{c} \quad (3)$$

となる. この(3)式は, 光量子すなわち物体は速度 c で運動し, 光が粒子であるならば座標間の速度に依存せず「速度不変」である.

そしてこれは物体間の相互運動, 「Newton-Galilei の相対性原理」である.

Michelson-Morley の実験において提示するものは, ローレンツ変換 ($\sin\theta$) とは光の波動現象の, すなわち宇宙空間とわれわれ世界, 慣性座標系の物体の運動への変換

$$\frac{2l}{\sqrt{c^2 - v^2}} \times \sin\theta = \frac{2l}{c} \quad (4)$$

であり, 宇宙の原理の一つと考えられる. 相対性理論は, この式を都合よく切り取り根本的誤りを犯した.

A. Einstein 第一の誤りは, 2つの慣性座標系相互の関係を論ぜず, 一方の座標系のみ, しかも水平方向の完全に誤った式を用いて, 驚愕ともいえる空間の収縮, ローレンツ収縮させたこと

$$\frac{2lc}{c^2 - v^2} \times \sin\theta = \frac{2l}{\sqrt{c^2 - v^2}} \quad (5)$$

第二の誤りは, 光の波動現象を物体の粒子の運動に変換し, 速度を c , 座標系によらず一定とした.

$$\frac{2lc}{c^2 - v^2} \times \sin^2\theta = \frac{2l}{\sqrt{c^2 - v^2}} \times \sin\theta = \frac{2l}{c} \quad (6)$$

Einstein の妄想が相対性理論, ローレンツ収縮と「光速不変」原理である. 物体の走行において空間の収縮, 質量の増加, そして時間の遅れはない. 光は相対速度 $\sqrt{c^2 - v^2}$ であり「光速可変」である.

この数式展開は相対性理論の破綻を証明している. 物理学研鑽者は人類の進歩のためこの数式の検証義務を負う. 数式の展開の厳しい検証をお願いする.